

ICTを活用した生活支援型コミュニティづくり

プロジェクト期間内の成果概要

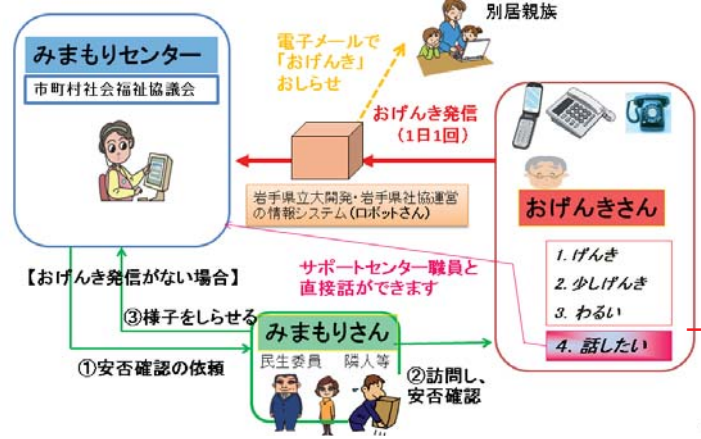
【現状・課題】
 高齢者の社会的孤立化の進展／支えあう関係の弱まり
 ⇒ 孤立死や自殺の増加、生活支援ネットワークの欠如
 (特に岩手県は人口密度が低く、遠慮がちな高齢者が多い)

【研究開発目標】 生活支援型のコミュニティづくり
 → 電話を有効活用した高齢者の能動的な発信(「おげんき発信」)を
 基盤としたICTによる高齢者安否確認・見守りシステムの構築

【対象コミュニティ】 岩手県盛岡市(桜城地区・松園地区)、滝沢村(当時)、宮古市(川井地区)
【主要な関与者】 地域住民、社会福祉協議会、大学、自治体、企業
 → 企業、NPO、市民まで巻き込んだ産学官**市民連携**

基盤となる「おげんき発信」の取り組み

第2次「おげんき発信」いわて「おげんき」みまもりシステム



(参考)

「おげんき発信」する利用者

「4.話したい」
 24時間365日で電話対応
 できる体制の整備

利用する高齢者「おげんきさん」は毎朝一回、電話を使って自らおげんき発信(相手はロボットさん)

↓

遠慮せずに発信できる

↓

自然と「見守られ上手」に

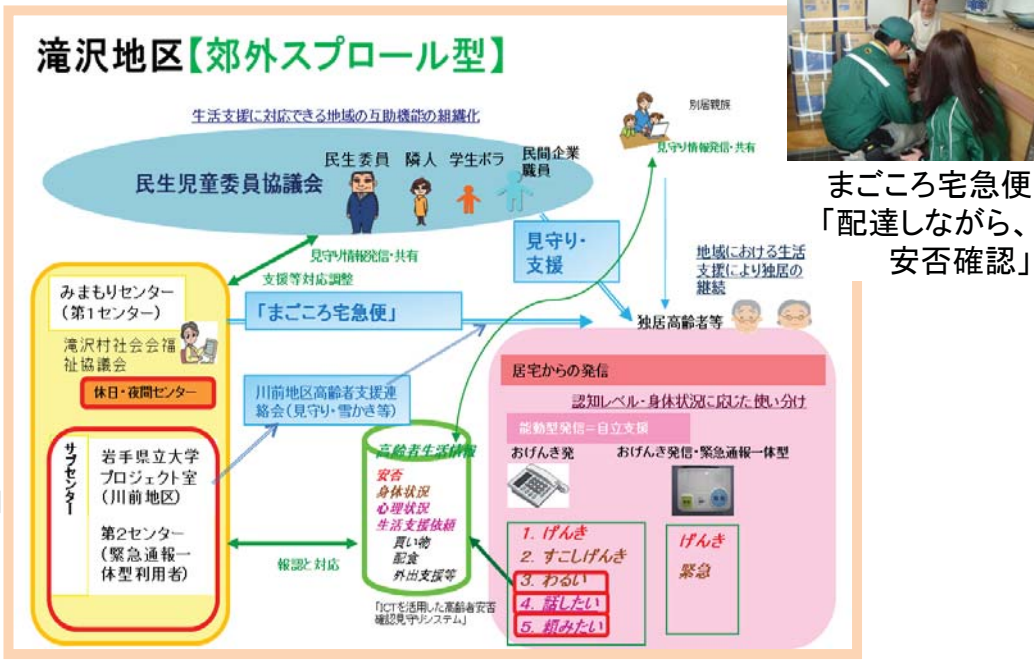
【開発した社会技術、成果(PJ実施期間中)】
 地域資源ごとに見合った生活支援型コミュニティ・見守りセンターの構築
 身体機能・認知機能に応じたシステム連携(生活行動感知センサー、緊急通報システム等)

地域の特徴に合わせたコミュニティづくり(支援内容・支援提供体制)

- ① 都心型
- ② ニュータウン型
- ③ 郊外スプロール型
- ④ 過疎・高齢化進展型



川前地区高齢者支援連絡会
 「生活支援情報を交換し、助け合う」
 ⇒ 地域での助け合いの組織化



プロジェクト終了後の展開と今後の展望

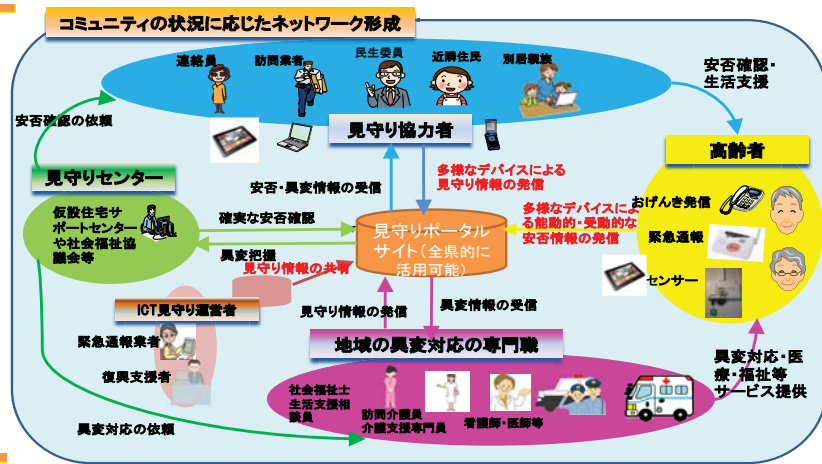
お問い合わせ先

岩手県立大学みまもりプロジェクト室、
Tel 019-694-3343

aki@iwate-pu.ac.jp

1. 岩手県での持続的取り組みと拡大

○本プロジェクトのすべてのフィールドで取り組みを継続している。
○復興庁 平成26年度「新しい東北」先導モデル事業採択
「ICT活用見守りネットワーク形成—多様なネットワークの連携による人的見守りの強化と進化」



2. デバイスの多様化

【スマホ】

NTTドコモとの共同研究「らくらくホン ベーシック3」向けサービス「つながりほっとサポート」アプリ 平成26年3月実装



【タブレット】

NECネットイノベーションとの共同研究
名取市仮設住宅の高齢世帯で、タブレット型「おげんき発信」と緊急通報、及びセンサーの複合的見守りを平成25年度から実装



【テレビ】

シャープとの共同研究。
リモコンによる「おげんき発信」とテレビ視聴状況による生活行動センシングによる見守りを実験中

【医療機器】

血圧計や服薬支援装置等、遠隔医療との連携を実験中

【ポイントカード】

スーパーの買い物ポイントカードによる安否確認の実験を企画中

3. 取り組み地域の拡大

○同領域の伊香賀PJ(高知県梶原町)、佐藤PJ(福島県浪江町)で連携
○復興支援は岩手県、宮城県名取市、福島県浪江町へと拡大 ○ドコモアプリにより全国へ

4. 広報・普及

岩手県県政テレビ11月24日放送 **いわて!! わんこ広報室**



「おげんき発信」
岩手県立大学
商標登録

日本遠隔医療学会
見守り分科会で事
業者連合会準備中

小学5年生教科書(平成27年度から5年間)
東京書籍「社会を変える情報化」



5. 今後の展望

地域ごとの資源を活かし、「ICT活用見守り」と「人の見守り」をネットワーク化することで、孤立を防ぎ生活支援型コミュニティをつくる社会技術として多地域で普及。